

# 平成 29 年度 第 1 回わくわく市民懇談会

1 日 時 平成 29 年 6 月 26 日(月) 午後 4 時から午後 5 時まで

2 場 所 市民会館 41 号会議室

3 出席者 市役所職員OB会 23 名

市長、随員職員 2 名

4 市長講話

(テーマ)

- ・自治体経営～中野市を運営する～
- ・変化・変容への対応
- ・大切な現場力
- ・新しい発想 チャレンジ精神の克己
- ・人を育てる 成長することに喜びを感じる組織
- ・関係性が大切な視点～公民連携・市民協働～

皆さま、こんにちは。今日は、普段私の頭の中にあることをお話できればと思います。

さて、二期目を迎え、はや半年も過ぎました。そんな中で、二期目は色々なことに果敢に挑戦していこうと思っております。話は逸れますが、市庁舎の関係については、鉄骨の「骨組み」がすべて終わりました、これから「床張り」が始まります。7月の中旬ほどになりますと、南北の側面に壁が取り付けられ、外観が見えてこようかと思っております。予定としましては、1月の竣工予定ですが、雪が降る前にほぼ完成をし、2月中旬に引越しというかたちで現職員の皆さまには荷物の整理など進めてもらっています。来年の3月には、新しい庁舎で業務に当たるという次第であります。

また、OBの皆さまにはご案内等させていただきますが、新庁舎をご覧になっていただければと思います。今回の庁舎につきましては、市民の皆様からお借りしている庁舎という気持ちであります。そんな意味もありまして、二階部分には休日にも市民の皆さまが自由に入出入りできて使うことが出来るスペースを確保しておりますので、有効に活用していただければと思います。また、5階には展望スペースもありまして、先日、鉄骨の足場を登ってみました、5階から高社山を目の当たりにできまして、十三崖まで見えました。また、南側については、当然のことながら全て見えるので、非常に眺望が良いです。

さて、二期目にあたりまして、これまでは市長として、中野市という自治体を経営するというところで、常に経営感覚を忘れないようにやってきたつもりであります。そんな中で、これからも経営感覚がますます重要になってくると考えています。経営と言いますと、経営資源である「ヒト、モノ、カネ」があります。中野市で言いますと、知恵、行動力、作業力などがあり、それらすべてを視野に入れまして、中野市を経営していきます。

さて、東洋経済の雑誌において、都市データの統計で「住みやすい街」のランキン

グが出まして、中野市が800近くある都市の中で43位でした。長野県では一番になります。これもデータの取りようですが、中を見ますと財政力や市民の所得などが含まれて、そのうえで暮らしやすいという指標です。当然のことながら、毎年の経営の状態によっては、順位は変わってきます。まさに今、まち、ひと、しごと総合戦略をやらせていただいています、**「住みよさで選ばれるまちへ」**というスローガンを掲げているわけですので、**「住みよい街」**というのが、そういった統計データに表れてきていると感じています。

さて、4年間、市長という仕事をさせていただき、実に多くの課題がある中で「市」を経営することはどんなことかなと思ひまして、これから先が安定して暮らせる街など一通りの言葉は表せますが、その中身をどう作るかを考えてみたいと思います。

いろんなことを演繹的に考えたときに中心にあることは、「人口減少」になります。これは単純に人口が減少しているということもありますが、人口構造が変わってきています。高齢者が増え、若年層が減ってきているなどもこのワードには加味されています。これを解決するには、経済的に言えば、生産性をあげればいいのではないかとされます。例えば、機械化などの導入をしたりすることが挙げられます。様々な要因がありますが、地域にとって深刻な問題です。新聞等でもお分かりのとおり、議会すら出来ない自治体がある中で、村民全員でいろいろなことを決めていこうという動きが出てきており、これから先、若い人たちに負担がかかっていきます。

また、「人口減少」は後継者不足、人材不足に繋がっていきます。中野市にはたくさん工場などがありますが、工業で働く人に聞くと、これから先、技術者を採用できないのではないかと心配されています。中野市も土木技術者の採用が出来ない状況に入っています。今後は、人材が不足してくるだろうと思われ、そこから様々な歪みが発生してきます。所得の問題が生まれてくるかもしれないと思われ、そういったことが社会の発展化の阻害要因になっていると考えます。農業、工業と商業の経済活

動が人口減少によって、購買力や吸引力が減るなどの問題が発展してきており、一番大きな根本的な問題は人口減少だと考えます。こういったことから、それらの産業の活性化をするためには、ヒトをどうするか、資本をどうするかを常に考えていかなければなりません。当然ここにあるのは、経済の活性化というテーマがあり、豊かな社会になれば、それが豊かな財政に繋がります。

いずれにしても市民の皆様が豊かに暮らせるように、活性化の仕組みを行政として注目しながら政策を展開する必要があると考えています。財政の豊かさには、雇用の増加や税収の増加がありますが、それが市の豊かさに繋がっていると考えます。豊かな財政があれば「教育」が充実します。

先日、全国市長会で勉強してきましたが、欧米地域も教育では、英語教育、ICTなど「答えのない問題を考える」教育が展開されています。また、小学生からプログラミングを勉強している状況にあります。そういった教育を展開するとき、教員の確保だったり、先生方に勉強してもらう資源などには、財政が関わってきまして、それら全部は「経済」に繋がっていると考えます。これは一例ですが、そういったことにより、財政が良くなれば市民の福利厚生の向上に繋がっていくのです。

話は変わりますが、入り口はいろいろありますが、例えば保育園の先生が大変というような声は現場から多く聞いています。人数を増やし、負担を減らすなど働き方改革を行い、行政のきめ細やかな対応が必要になってきています。今後は、財政的に余裕のある自治体が残っていくと考えますし、そういった意味でも経済を抜きに語ることは出来ませんし、財政を豊かにすることに力を入れることで若い人たちにこの地域に残ってもらえる仕掛けにもなると思います。

さて、先日の新聞に載っていましたが、「公務員の定年延長」がありました。これについては、民間企業ではどんどん進んでいるので、私は公務員にもそういう時代が来るなどと思っていました。私たちが暮らしている世の中は、日々変化変容していますの

で、そういった世の中の変化に対応していくことが重要になってきています。行政が事業的なことを展開しようとしたときに経営的、民間的な考え方を取り入れていくことが重要だと考えています。近年、よく言われる「PPP」、「PFI」という言葉の「公民連携」が今の世の中では求められています。これからは、民間事業者に引っ張ってもらいながら事業を行うということが、今後主流になっていくと思われます。ですので、今の職員の皆さんには、今後そういったことに勉強や挑戦をしてもらいたいと思っています。しかし、すぐに挑戦することは難しいので、まずは勉強をしてもらいたいと思っています。そういった理由から庁内研究所として「中野市政策研究所」を今年度開設しました。現在は9名の若手職員が所属しています。この人たちが外に出て、新しい発想や感覚を学んでいただき、中野市の将来のために挑戦をして変わってもらいたいと考えています。

また、この事業については、若い人たちが挑戦し、変わってもらうことを目的に開設しましたので、人材育成が主の目的の事業だと考えます。これからの時代に対応するには、考え方を変えていかなければなりません。今の市役所は「管理集中型」の体系ですが、すべてではありませんが、一部の部分では「自立分散型」という自分たちの思いを事業にしていく、そんな体系であってほしいなと考えます。言ってみれば、ボトムアップ型ですが、若い職員が挑戦していく姿勢をもってもらいたいなと、かねがね思っており、職員には伝えてきました。

さて、そんな政策研究所では、つい先日、研修の主要講義が終わりまして、これからはそれぞれのセクションの研究をしてもらいます。いろいろな講師の先生のお話を聞いて勉強してもらっています。その中で、新しい世の中の動きを把握し、失敗を恐れずチャレンジをしてもらいたいと思います。

今、別に取り組んでいるのが、「農業経営塾」です。経営はビジョンを探すことでありまして、将来をどういったスケジュールで考えるか、目指すべき農業経営をみんな

で考えようという取り組みです。これを考えた理由については、先日東京にいった際に話を聞いたのですが、簡単な装置で変わるのです。例えば、スマートフォン、ドローンなどを活用した農業の仕組みを実験的にやっているところがあるそうです。それをいち早く中野市で取り入れることをしたいと思っています。ですので、中野市がそういう技術革新に乗り遅れないように農協さんとも連携しながら取り入れていくような支援を展開していきたいと考えます。また、そこに一期生や二期生などの輪を作ってもらい、「そこに入りたい」と言う人が増えていくことで良い循環が出来ると考えます。こういったことから、人を育てることについて第一として考え、若い人たちの芽を育てることが大事だと考えます。

次に、文化の問題に触れたいと思います。観光にも繋がる話ですが、中野市は芸術、文化、音楽など歴史的にみても、多くの著名人を輩出している自治体であります。文化、芸術が廃れるところに都市の発展はないと言われます。このことから、「信州中野学」をやりたいと考えます。中野市について、みなさんは十分知っているでしょうか。そういったことを学ぶうちに、中野でガイドをやりたいという人が出てくれれば良いと思います。

次に市民会館についてですが、私から提案をし、市民の皆さまから回答をいただきたいなと思います。その運営方法なども含めてご提案をしたいなと思います。将来の中野市にとって、負担にならないような運営方法を検討していき、市民の皆さまに提案したいと思います。また、これについては過去に何回も検討された経過がありますので、それらも活かして検討していきます。いずれにしても、経済を中心に周辺の自治体とも協力しながら中野市が経済的にも社会的にも豊かになることを考え、事業に取り組んでいきます。

観光について、話をしたいと思いますが、私なりに観光拠点を考えてみました。観光拠点とは、1時間以上滞在できる場所だと考えますが、それを中野市にあてはめた

ときに該当するのが「バラ公園」だと思います。私が思う以上に、外の人には注目していただいています。その分評価が厳しいです。「毎年、来ていますが、全然変わっていませんね。」などと言われます。バラまつりにお越しいただき、お金を落としてもらうことを当然考えますが、そこから何があるか、どんな展開があるかを考えなければなりません。そこに商機があれば、資本は集まってくると思いますし、そこに市が手助けすることはいいと思います。先日、伊那市に「ばら制定都市会議」に加盟してもらったので、県内の伊那市、坂城町と連携しながらバラをPRできたと思いますし、仲間を増やして切磋琢磨をしていかなければなりません。また、市の中心地にバラ園があるのは、全国的にも珍しいので、それを活かし、観光に力を入れていきたいなと考えます。

また、ブランド化についても信州なかのブランドとして「食」を中心に広がってきました。基本は、市民の皆さまから「やりたい」という声を引き出して、市としては取り組んでいきたいと考えます。

いずれにしても、地域を変えていくという方が増えてきたと思いますので、これからもそんな仕掛けやしくみを作ってサポートをしていきたいと思います。本日はありがとうございました。

#### 《質疑応答・要望①》

政策研究所で学んだことを活かせる場所を作ることは出来ないでしょうか。

(市長)

一度、地区担当制を考えたのですが、職員の異動があったり、その地区の方々が職員に頼りきりになることが懸念されます。地域の方々が自ら考え行動できるようなことを醸成したいと考えているので、そういった機会を検討していきたいと思います。

《質疑応答・要望②》

中野市の発展のために、職員や議員さんと考えを共有して、経営などを進めてもらいたい。

(市長)

コミュニケーションを大事に進めていますが、中野市の人には個々の潜在能力が高いと考えますので、そういった場所や機会をこれからも多く作っていきたいと思います。

《質疑応答・要望③》

政策研究所では10年後、20年後に生まれてくる人たちが「良かった」と思えるようなまちづくりをしていってもらいたいと思いますが、市長の考えをお聞かせください。

(市長)

政策研究所には、テーマを設定してもらい、取り組んでもらいますが、今後のテーマ設定のときに私も関わっていきます。上から押し付けるような形ではなく、一緒に考えていきたいと思います。一方で進捗状況については随時、情報発信をしていきたいと思います。なお、進め方については、これから考えていきたいと思います。